

人口ビジョンを改訂

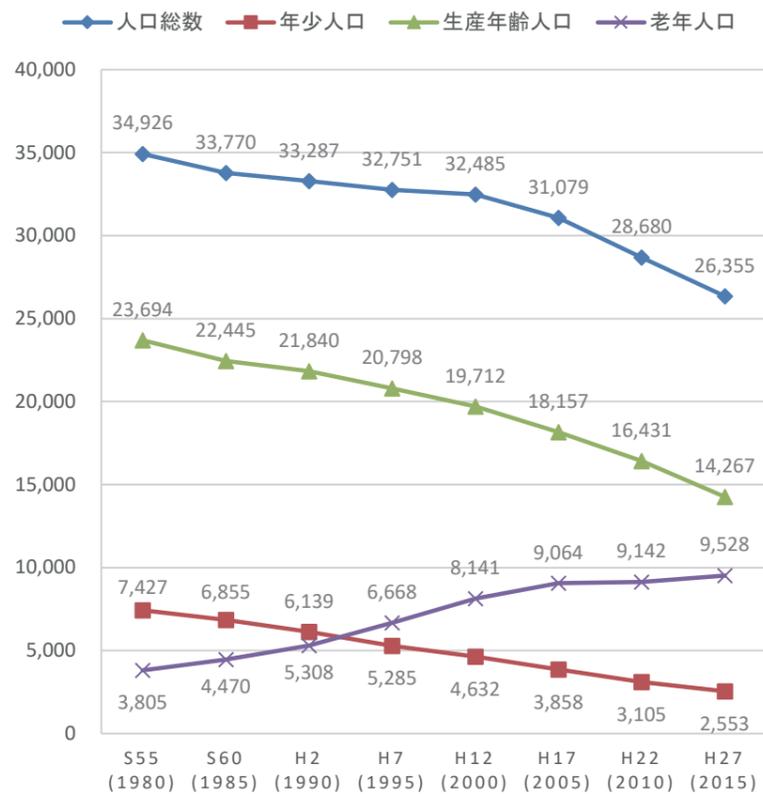
総合戦略の基礎となる人口ビジョンは、総合戦略に基づく施策を講じることにより見通される人口の将来展望を明らかにするものです。

平成30年の国立社会保障・人口問題研究所(以下、社人研)の推計で市の将来人口は下方修正されましたが、本市の令和22年における人口目標は、現在設定している目標値18,800人に据え置くこととしました。

なお、令和2年3月の改訂では、第2期の総合戦略策定に伴い、一部のデータを最新値に更新しています。

【実績】市の総人口と年齢3区分別の人口推移

(単位：人)



グラフの解説

▶ 昭和55年の34,926人から減少が続いており、平成12年以降は減少幅が大きくなっています。

▶ 15歳未満の年少人口と15歳から64歳までの生産年齢人口が減少しており、これらの年代の人口減少が本市の人口減少の大きな要因となっています。

▶ 年少人口は、1970年代に誕生した「団塊ジュニア世代」をピークとして、年々減少が続き、平成7年には老年人口を下回っています。

▶ 65歳以上の老年人口は、生産年齢人口が順次老年期に入ったこと、平均寿命が延びたことから一貫して増加を続けています。

▶ 年齢3区分別人口の平成17年から27年の推移をみると、年少人口は全体では減少傾向です。27年時点で若干の改善は見られるが、生産年齢人口は22年時よりも減少が加速。老年人口は22年時よりもさらに増加となりました。

目標を達成するために
次のことを重視します

◎出生率の向上を図り、自然減の減少抑制を目指す

◎人口移動率の低減(流出抑制)を図り、定着率の高いまちを目指す

そのために講じる策が

総合戦略

次で
紹介!

【目標】 これからの長期的な見通し

上段：市の目標値、下段：平成30年の社人研推計値 (単位：人)

	R2 (2020)	R7 (2025)	R12 (2030)	R17 (2035)	R22 (2040)
人口総数	24,712	22,964	21,377	20,016	18,800
年少人口	2,225	2,142	2,141	2,201	2,293
生産年齢人口	12,571	11,116	10,067	9,326	8,629
老年人口	9,916	9,706	9,169	8,489	7,878
	9,912	9,701	9,141	8,414	7,747

働く



育てる



暮らす



呼び込む



第2期

総合戦略を策定しました

まち・ひと・しごと創生

【問い合わせ先】

企画財政課地域戦略係
(☎・内線 1207)

日 本の総人口は、平成20年の1億2808万人をピークに、令和元年には1億2625万人に減少しています。このままでは、人口減少が加速的に進むとともに、地方から人口減少が始まり都市部へ広がっていくとされ、東京圏への人口の集中が、日本全体の人口減少に結び付けていくとされています。

そこで国は、平成26年に「まち・ひと・しごと創生法」に基づく「長期ビジョン」と5カ年の目標や施策の基本的方向などをまとめた第1期「総合戦略」を策定。①「東京一極集中」の是正②若い世代の就労・結婚・子育ての希望の実現③地域の特性に即した地域課題の解決——を指すべき将来の方向と決めました。

本 市においても、平成27年に「人口ビジョン」と第1期「総合戦略」を定め、人口減少対策を進めてきました。起業や新規就農の促進、外国人観光客の誘客など、一定の成果を上げてきているものの、人口減少加速化に抑制をかけるまでには至っていません。第2期総合戦略策定に当たっては、この5年間を検証し、優先順位の見極めをしました。市の目指すべき将来や5カ年の目標、施策を総合戦略に定め、継続して人口減少抑制に取り組んでいきます。

第2期総合戦略の概要

本総合戦略は、第1期総合戦略(平成27年策定)の取り組み結果を踏まえ、国と県の第2期総合戦略を勘案して策定しました。計画期間は、令和2年度から6年度までの5年間です。総合戦略、人口ビジョンは、市ホームページからダウンロードすることができます。今号では概要しか紹介できませんでしたが、ぜひ確認してください。

市が将来にわたって「しあわせを実感できるまち」であるために、市民の皆さんと一緒にプロジェクトを推進していきましょう。

◆第1期総合戦略を振り返る

4つの基本目標と17のプロジェクトにより、人口減少対策を総合的に進めてきました。基本目標における平成30年度までの達成状況を見ると、12の数値目標のうち達成は2つ、基準値を上回ったのは1つで、ほとんどが基準値を下回っています。一方、17のプロジェクトの重要業績評価指標(KPI)は、平成30年度には8の項目で目標を達成しています。

◆第2期総合戦略の変更点

実施できなかった施策や動きがない施策は、抜本的に取り組みを見直し、17のプロジェクトを13に整理。コミュニティスクールの推進などにより、地域の魅力を再認識し、地域への誇りや愛着を醸成していくこと、シェアオフィスなどの利用促進や副業人材の受け入れによる都市と地方の新しい関係性を構築していくことをプロジェクトに盛り込みました。

また、4つの柱全てに関わる横断的な視点が必要であることから、持続可能な開発目標(SDGs)を関連付け、IoTやAIなどの新しい技術を使って問題の解決を図り、暮らしやすい社会をつくること(Society 5.0)を重視していきます。

1 八幡平市で働く

【基本目標1】八幡平市の特性を生かした、生きがいを感じる働く場の創造

■基本的方向

- 八幡平市の豊かな自然の恵みを最大限に生かした、生きがい・創造の産業ブランドづくり
地域資源を生かし、若者に夢と希望を与える創造的な八幡平ブランド育成の環境づくりを推進します。
- 産学官金連携による産業の強化
大学や高等学校、金融機関などと企業の連携により人材の確保と育成を支援するとともに、多様な人材と企業のマッチングを支援し、産業の強化を図ります。
- 若者のニーズにマッチした新たな産業の創造
情報通信業をはじめとした新しい分野の雇用を創出し、若者の地元定着を促進するため、起業家の育成を図ります。

■数値目標

指標名	基準値	目標値(R6)
農業産出額(推計)	(H29) 1,380百万円	1,400百万円
起業件数(個人事業主含む)	(H30) 5件	(累計) 18件

■注目プロジェクト

- 農畜産物の戦略的な産地形成と生産性の向上
繁殖育成センター(仮称)を整備し、牛の生産基盤を強化を図ります。
- まちの人事部プロジェクト
まちの事業部とは——
市の産業界全体を多数の事業部を有する一つの大きな事業体に見立て、企業の人事機能を集約。採用や育成に係るコストの削減や人材の流れを地域内で完結させるなどのメリットがあります。



▲市内企業と就職希望の生徒が高校の先生との懇談会

2 八幡平市で育てる

【基本目標2】八幡平市の地で縁を結び、次世代の成長と笑顔を育む

■基本的方向

- 子どもたちや大都市などの若者・女性・子育て層が集い、住みたくなる定住促進の拠点づくり
ふるさと八幡平市への誇りと愛着を育み、女性や若者、子ども、子育て層が暮らしやすい定住環境の充実を図ります。
- 子どもを育てたい“まち”八幡平の確立
市の子育て環境の良さを知ってもらい、里帰り出産など一時的なりターンも含めた地元回帰と、子育て世代のコミュニティを醸成し、子育てのまち八幡平の充実を図ります。

■数値目標

指標名	基準値	目標値(R6)
女性人口(15~39歳)	(H30) 2,264人	2,284人
出生数	(H30) 121人	113人
合計特殊出生率※	(H29) 1.40人	1.61人

※一人の女性が出産可能とされる15歳から49歳までに産む子どもの数の平均

■注目プロジェクト

- 待機児童の解消など保育環境と小児医療の充実
- 子育て支援組織や体制の充実



▶松野保育所と寄木保育所を統合し、新築している松尾地区保育所(仮称)の完成予想図

3 八幡平市で暮らす

【基本目標3】地域の元気を生かした持続可能なまちづくり

■基本的方向

- 拠点となる地域の活性化と連携強化による持続可能なまちづくり
持続性の高いまちづくりに向けて、地域の拠点や既存機能の集積などによる活性化への取り組みや、盛岡広域圏内での広域連携によるまちづくり課題への対応、資源循環の取り組みなどを進めます。
- 市民や地域が輝く、協働のまちづくりの推進
市民が、地域内活動(交流や地域貢献活動など)に積極的に参加、協力をするような取り組みを強化し、各地域のコミュニティや絆、共助体制の強化を図ります。
- 八幡平市プロモーションの強化
市民・地域企業・団体などの多様な主体と連携し、市の魅力を内外に積極的にPRしていきます。

■数値目標

指標名	基準値	目標値(R6)
地域コミュニティ活動の延べ参加人数	(H30) 11,559人	11,000人
八幡平市ホームページのページビュー数	(H30) 109万PV	135万PV

■注目プロジェクト

- コミュニティスクールの推進
- 病院を拠点とした保健・医療・福祉連携の充実



▲放課後に丸付けをする教育パートナー(安代小たけのこ教室)



▲国保西根病院が移転し、8月1日から開院する八幡平市立病院

4 八幡平市に人を呼び込む

【基本目標4】八幡平市の豊かな自然や絆を生かし、新たな人が流入する流れを創る

■基本的方向

- 地域資源を生かした持続可能な観光地づくり
豊かな自然資源の恩恵を継続的に活用する持続可能な観光地づくりを進めます。
- 自然の恵みの中でひとが輝く、心豊かに暮らせる故郷づくり
豊かな自然の恵みに魅力を感じ心豊かに過ごしたい人を呼び込み、まちの活性化につながる取り組みを推進します。
- ワーケーションや多拠点居住など、新たな暮らし方を受容したまちづくり
安比高原や八幡平温泉郷のリゾート地という特性を生かし、ワーケーション(ワークとバケーションを組み合わせた造語)や多拠点居住者の受け入れを推進します。

■数値目標

指標名	基準値	目標値(R6)
観光客入込数	(H30) 1,944千人回	2,103千人回
観光宿泊者数	(H30) 533千人回	600千人回
転入率(人口千人当たり)	(H30) 21.23人	24.00人

■注目プロジェクト

- 持続可能な観光地づくりを目指す「サステイナブルツーリズム」の実践
サステイナブルツーリズムとは——
持続可能な観光を求める考え方や行動という意味で、地域の環境や自然、文化を切り売りするのではなく、それらを守りながら観光を提供します。
- シェアオフィスやコワーキングスペースの利用促進



▲電気や温泉を供給し、市の観光を支える地熱